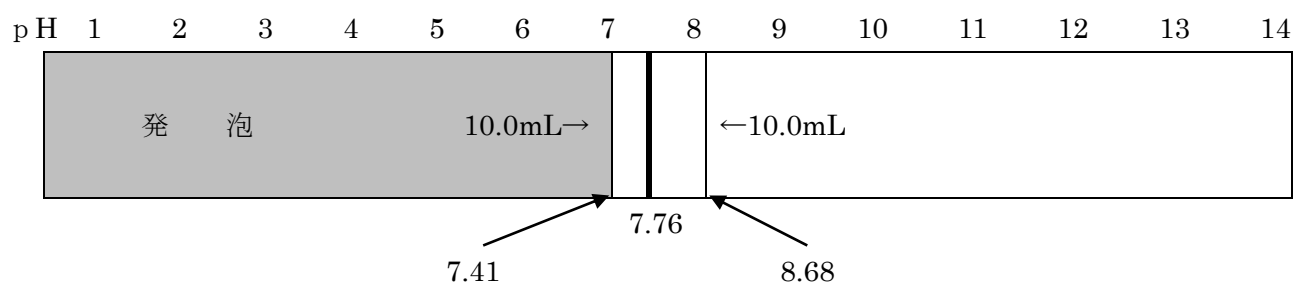


炭酸水素ナトリウム静注7%PL「イセイ」の pH変動スケール

pH:7.76 [規格 7.0~8.5]

	添加量	pH	変動スケール
0.1mol/L HCl	10.0mL	7.41	0.35 (発泡)
0.1mol/L NaOH	10.0mL	8.68	0.92 (変化なし)



炭酸水素ナトリウム静注 7%PL「イセイ」

輸液との配合変化

炭酸水素ナトリウム静注 7%PL「イセイ」1 アンプルを、大塚糖液 5%、アミノフリード輸液、ビーフリード輸液、大塚生食注、KN1 号輸液、ラクテック注の各輸液に配合し、配合直後、6 時間後、24 時間後に外観性状及び pH について観察と測定を行った。

●炭酸水素ナトリウム静注 7%PL「イセイ」

性状：無色澄明液の水性注射液である

pH：7.0～8.5

配合量：1 アンプル（20mL）

●大塚糖液 5%

性状：無色澄明

pH：3.5～6.5（＊約 4.8）

配合量：500mL

●アミノフリード輸液

性状：上室液（アミノ酸液）及び下室液（糖・電解質液）は無色澄明である

pH：上室液 6.5～7.5（約 7.4）、下室液 4.5～5.5（約 5.1）、混合時（＊約 6.7）

配合量：500mL

●ビーフリード輸液（ビタミンB₁・糖・電解質・アミノ酸液）

性状：上室液（アミノ酸・電解質液）及び下室液（ビタミンB₁・糖・電解質液）は無色澄明である

pH：上室液 6.3～7.3（約 6.8）、下室液 3.5～4.5（約 4.0）、混合時（＊約 6.7）

配合量：500mL

●大塚生食注

性状：無色澄明の注射液である

pH：4.5～8.0（＊約 6.4）

配合量：500mL

●KN1 号輸液

性状：無色～微黄色澄明の注射液である

pH：4.0～7.5（＊約 4.9）

配合量：200mL

●ラクテック注

性状：無色澄明の注射液である

pH：6.0～8.5（＊約 6.7）

配合量：500mL

試験結果：

配合輸液	試験時期	外観性状	pH
大塚糖液 5%	配合直後	無色澄明液	8.13
	6 時間後	無色澄明液	8.14
	24 時間後	無色澄明液	8.17

配合輸液	試験時期	外観性状	pH
アミノフリード輸液	配合直後	無色澄明液	7.08
	6 時間後	無色澄明液	7.00
	24 時間後	無色澄明液	7.06

配合輸液	試験時期	外観性状	pH
ビーフリード輸液	配合直後	無色澄明液	7.17
	6 時間後	無色澄明液	7.12
	24 時間後	無色澄明液	7.19

配合輸液	試験時期	外観性状	pH
大塚生食注	配合直後	無色澄明液	8.25
	6 時間後	無色澄明液	8.24
	24 時間後	無色澄明液	8.27

配合輸液	試験時期	外観性状	pH
KN1 号輸液	配合直後	無色澄明液	8.19
	6 時間後	無色澄明液	8.20
	24 時間後	無色澄明液	8.25

配合輸液	試験時期	外観性状	pH
ラクテック注	配合直後	無色澄明液	8.13
	6 時間後	無色澄明液	8.10
	24 時間後	無色澄明液	8.12

●外観

いずれの輸液も大きな変化は見られなかった。

●pH

いずれの輸液も大きな変化は見られなかった。